

少年野球教室

松尾少年野球教室

平成12年度保護者会会長

松下 親章

私達の野球教室は、保護者会が中心となり、松尾小学校に通う、一年〜六年生の子供達で活動しています。

活動期間は三月の自主トレも含め十一月までの九ヶ月間、内容は主に、松尾小学校の校庭で、毎週日曜日の午前中練習する他、飯田市を中心とした各大会に年六回ほど参加したり、練習試合も四回程度行なっています。

中でも、五月下旬に私共が主催する松尾大会は、参加十二チームで行なわれ、今年で九回目を数えます。子供達と保護者が一つとなって大会を成功させたり、チームワークの大切さや、礼儀正しさを学ぶ上で、この野球教室が良い場となっていると思います。



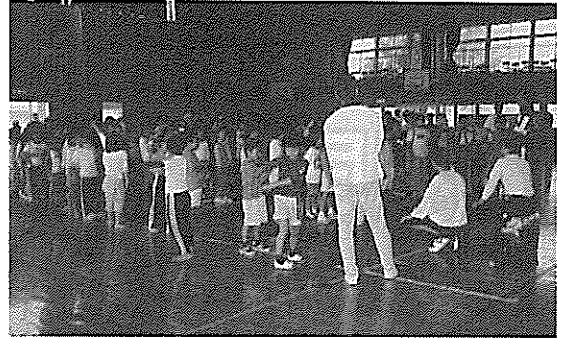
ラグビースクール

ラグビーを通じて友達づくり

飯田少年ラグビースクール

私達飯田少年ラグビースクールは、松尾小 緑ヶ丘中を中心に構成され、二十年余の歴史のある県で一番古いラグビースクールです。年間の事業は四月の開校式から始まり、三月の終了式までです。年間の事業の中では、七月の菅平高原での合宿(中学生はジャンプリー大会) 九月県スポ少大会 十月中央道沿線都市親善スポーツ大会 十一月県ラグビースクール交流大会等年間五〜十回程度の交流大会に参加します。一月には中学生の全国交流大会が花園ラグビー場であり、今年も我スクールから選手が出場しました。

ラグビーはチームプレーなので九人以上の仲間が必要なので友達をさそってチーム作りをし、友達の輪が広まっています。ぜひ多くの参加を……。



レクリエーション

「こぎつねコンとこだぬきポン」「おかあさんの、やさしい手」の二本上映とても良い作品内容に感動しました。子供たちにとって、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

少年スポーツクラブ紹介

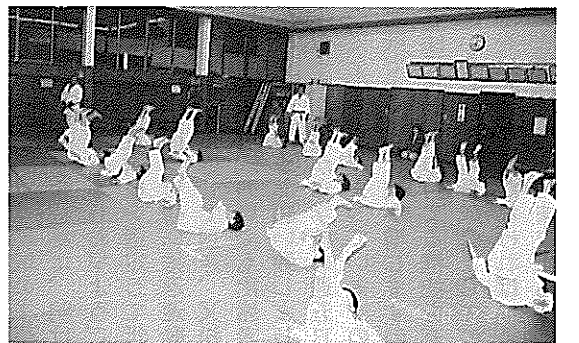
節目の年、

初心にかえり

松尾柔道クラブ

冷たく澄んだ空気の中、道場には子供達の元気な声と畳を叩く受け身の音が響き渡っています。

昭和四十六年に名称を松尾公民館柔道クラブと変え再発足以来、青少年の健全育成と柔道の研鑽と練磨に日々励んでいます。又、二



柔道クラブ

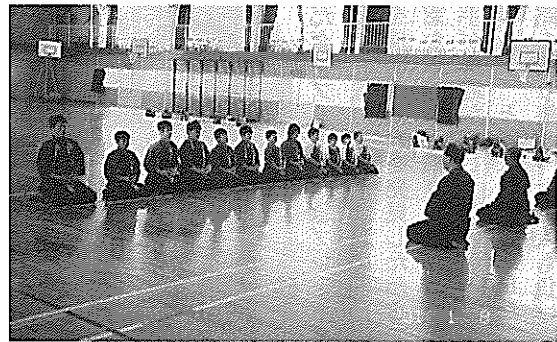
十一世紀に入った今年は節目の三十年を迎える事が出来、この間多くの子供達が巣立って行きました。クラブ員は小学一年生から高校一般と年齢層も厚く、厳しい稽古の中にも柔道以外のレクリエーション活動等を取り入れ、皆楽しくやっています。現在は年度末に行なわれる学年別大会に向け稽古に励んでいます。毎週金曜日の午後六時三十分より松尾支所横のミニ体育館で稽古を行なっていますので一度覗いて見て下さい。

礼に始まり、

礼に終わる

松尾剣道部

私達剣道部は昭和四十四年に発足以来多くの皆様や先輩方にささえられ現在に至って居ります。現在部員は少数ですが小学生か



剣道クラブ

ら一般迄全員が毎週火曜日、土曜日の週二回の稽古を元気良く行なっています。冬の日も夏の日も小学校体育館でお腹から大きな声を出し、稽古の最後に一同正座をした時流れる汗は心地良いものです。剣道は、履物揃えて返事よくお辞儀が出来て我慢すること、この言葉をよく学び己れに勝つことを目標にして励んでいます。剣道は礼に始まり礼で終わるという礼儀も学びます。稽古をした後の清々しい気持ちも多くの方に体験して頂きたいと思いい、今年も一人でも多くの入部を心からお待ち致しております。

松尾少年空手クラブ

夏季合宿

杉野 隆

私達松尾少年空手クラブでは、



空手クラブ

発足以来25年間毎年つづけて行なっていることがあります。それは学校の夏休みを三日間利用して行なう「夏季合宿」です。

昨年は上野野底山の麓にある「姫宮林間学校」で行ないました。早朝五時から一日八時間に及ぶ厳しい練習がはじまります。

一日中基本練習ばかり三日間、さすがに私達指導員もくたくたになります。しかしこの三日間上級生は先輩たちの面倒をよくみて下級生は先輩達に必死についていきます。そしてこの厳しい夏の合宿を全員が一つになってのりきり、共に切磋琢磨できるのだと思います。

私達指導員は全員この合宿を小学生の時より経験し今とても心強く思っています。だから後輩たちにもぜひ体験してほしいのです。



少年少女バレーボールクラブ

クラブの近況

松尾少年少女バレーボールクラブ

バレーボールクラブは、九年目に入り、現在児童数は、二年生から、六年生迄二十四名。毎週火・土曜日の六時から八時迄、緑中の体育館で、「感謝、思いやり、素直の三つの心を大切に」を目標に活動しています。今年度より男子が入り来年度の男子増加を期待しています。練習は基本に重点をおき指導しています。

上級生と下級生のパスを通して縦のつながりを大切に、全員が試合に出る事により、自信をつけ今年度は、低学年大会において、一位、二位を独占し、徐々に力をつけていきます。

中学、高校へ進んだ先輩達の活躍を聞き、嬉しく思っています。



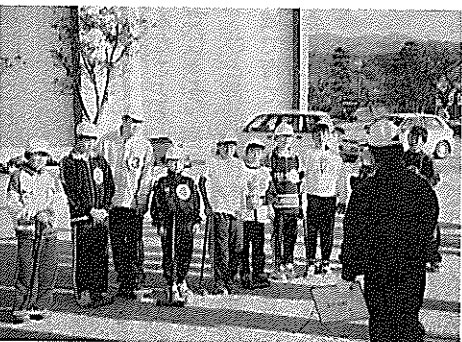
はつきりクラブ

想い出の諏訪方面吟行会

松尾はつきりクラブ

松尾はつきりクラブは創立以来始めて松尾一般会員と共に日帰り旅行に五月諏訪の祖宗庵木村岳風先生の墓参、岳風記念館、原田泰治美術館、北澤美術館を見学しました。特に墓前では全員で合吟しました。

記念館では子供等のみにて松尾芭蕉の俳句「夕月や」と朱蕉の「偶成」を合吟した時、館長先生は非常にお喜びになり、これはすばらしいと褒めていただき、館長先生は事務室に赴き褒美にと鹿児島産の「ミニ草鞋」を子供全員に戴きました。子供達は大喜びにて帰りのバスの中で何回も出して眺めていました。こうして一般会員と一日中ゆっくりと旅行し昼食も一般と同じ特別弁当を戴き楽しい旅行が出来たことは子供にとって大きな想い出となったことと思いい、心に残る旅行でした。



少年ゲートボールクラブ

松尾少年ゲートボール

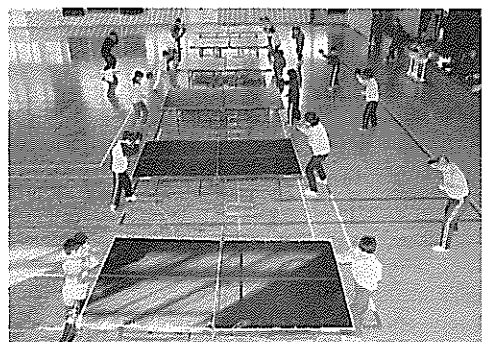
活動と入会のお願い

ゲートボールクラブ 小本曾易夫

十二年松尾小学校、四年五年六年生の男子生徒十六名のクラブを発足、初めは「ステック」の握り方、打撃時の足の構え方から、第一ゲートの通過の練習を行う、初めは難しい様子だったが練習を重ねるに従い上手にゲート通過できるようになった。

十月十四日松尾育成会「松尾少年ゲートボールクラブ」を発足いたしました。二年生以上男女混合で松尾明竜水園コートで第二第四土曜日に練習をしています。

「ゲートボールは五、六才児から高齢者まで安全に誰でもできるすぐれたスポーツ」です。「頭を使う、考える、友達ができる」技能の奥の深いスポーツです。入会希望の方は担任の先生に申し込みをしてください。中学生の皆さん入会大歓迎。



卓球教室

ラリーの楽しさを

松尾卓球教室

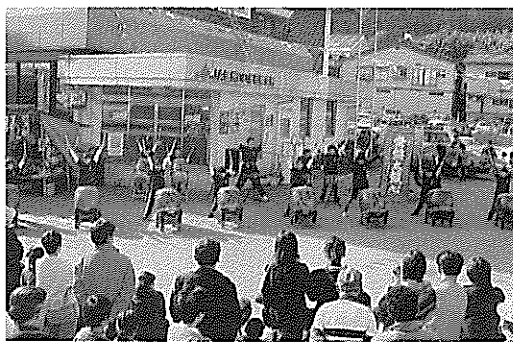
松尾卓球教室の仲間は小学一年から六年まで現在二十四人。初めてラケットをにぎる人から、大人顔負けのラリーができる人までさまざまです。

練習は素振りやフットワークといった基礎訓練を重視しますが、三ヶ月もして、型(かた)が出来て、どこに行くかわからなかったボールがコントロールされラリーが続くようになると、子どもたちにも基礎の大切さが少しずつわかりはじめます。先日、一年目の子ども一〇〇本ラリーができました。

子どもたちと過ごす時間も楽しめです。日頃の運動不足解消かねて親子一緒に参加ください。*練習は毎週日曜、午前九時から松尾小体育館。連絡は二二・五七〇三(小池) または松尾支所まで。

楽しい和太鼓

和太鼓教室



和太鼓教室

昨年からスタートした和太鼓教室です。

小三から中学生まで十六名で、毎月第二金曜と第四日曜の二回勤労者体育館で練習をしています。

和太鼓を通して体力とリズム感そして皆で協力し合う心を育てる事によって、一曲が完成します。

子供達の毎日の生活の中で、貯まりつつあるストレスを太鼓を思いっきり打つ事で発散させてあげ

る事も出来るのではないかと思えます。今は、二曲目の曲に取り組んでいますが子供達の曲を覚える早さに私たち一同びっくりしています。

子供達が一生懸命頑張っている姿を、今年は、松尾の皆さんの前で披露出来る様私たちも努力していきたいと思っています。

平成十四年度から

週五日制が施行されます

どの様に想いますか？

緑ヶ丘中学校PTA校外指導部長

代田 孝一

学校週五日制について、私の考えを述べたいと思います。

今更賛成、反対と言ってもこの制度が変更になる訳ではありませんが、基本的には反対です。理由は、私の家庭を含めて共働きが多く、核家族が進んでいる現在子供たちだけで過ごす時間が多くなることは、色々な面で親の届かない事が多くなるからです。

最近のテレビ、新聞のニュース等で少年による犯罪が報道される事が多くなっています。それを目にする度「そんなことをするような子には思えない。」とか「普段は優しく、おとなしい子だ。」とか言うコメントを聞きます。これはもちろん休みが多くなったから起きたという理由だけではないと思います。子供が休みの日に家には誰もいない、三食全てコンビニ弁当などの買い食いをさせざるを得ないという家庭も出て来ないとは限りません。

子供たちには、家庭だけでなく地域によるもう少し広い範囲での見守りが必要になって来ると思っています。例えばスポーツを通して、今でもスポーツ少年団等あります

く変容していく時代を迎えることとなりました。

最近ある実態調査でこんな声を聞く機会がありました。「子ども達の休日の過ごし方として、特にどのように望みますか」という家庭からのアンケートに対して、一番多かった答えが小学生の場合、「家の手伝い」60%、次が「戸外での遊び」57%でした。

また週五日制に伴って、地域や社会で特にしてほしいこととしては「遊びや体験を通して社会生活のルールを体得」63%がトップで「地域の文化を知る体験」23%、「ボランティア活動」17%、「自然体験」16%等が挙げられます。

週二日の休みをどう過ごすかは基本的には子ども達の主体性に任せられるところですが、休日に子ども達を戸外で見かけることが少なくなってきた現在、地域ぐるみで受皿をつくり、子ども達とともに戸外に出て活動する楽しさやおもしろさを数多く体験させることから始めることが大切ではないかと思えます。

現在の子ども達が、そのまま今の大人社会を反映していることを認識し、まず大人自身が子ども達の未来像をしっかりとみつけて、行動を起こすことが求められているのではないのでしょうか。

緑ヶ丘中学校(二〇〇〇年度)

生徒会長 小木曾 祐太

僕は、学校週五日制には、はっ

が、それをもう少し充実させて練習に励む場を与えるとか、スポーツだけでなく、ボランティア、人形劇等色々な行事に参加したりして地域にかかわる事の大切さ、喜び等身をもって体験できる場の充実が急務であると考えます。

いずれにしても学校週五日制になったから子供たちが地域の行事に参加してくれる様になって良かったと思われる様になって欲しいです。

松尾小学校PTA校外指導部長

塩澤 嘉昭

平成十四年度より学校の週五日制が実施される事に対して、授業時間の問題、学校行事の問題、各家庭の問題等々いくつか解決しなければ成らない問題があると考えています。

授業時間而言えば、現在、一年生でも五時間授業で子供は夕方になり家に帰って来ます。おやつの後宿題をやり終えれば夕食という事もあります。又先生方は、朝七時過ぎには学校に来られ、夜八時過ぎ迄という事も多い様に聞いています。子供のゆとり、先生方のゆとりは大丈夫なのか、一日が忙し過ぎないか心配です。学校行事の時間はどうか、

ちと遊んでも良いと思います。

とにかく、自分で何に時間を使うのか、しっかり決めることが、大切ではないかと思えます。

青少年と心のつながる

地域づくりを

育成会長 遠山 安實

松尾地区青少年健全育成連絡協議会が発足しました。各種団体の総会では、青少年健全育成を活動計画の中に盛り込んでいますが、横のつながりがありませんでした。社会の動きは速い。そんな中へマスコミは矢継ぎ早に事件の情報を流し込む。青少年は何を、どう受け止めたらよいかのわからぬまま流されて行く。こんな時代だから地域がしっかりと青少年を受け止め、環境を整え、安心できる地域づくりを実現する組織が必要ではないか、と一昨年から提案して来ました。昨年「青少年を非行から守る」ことが話題となり開会、十二月十五日に協議会が発足したわけです。その中で「青少年と心をつなぐ道は挨拶」との願いからチラシで提案されたわけです。

連絡協議会ができただけでは何の意味もありません。定期的に会を開き、生きて働く会。各種団体が連携し活動を進める(地区ミニ集会・懇談会また五日制に向けての受け止め方等々)が必要があります。しかし、提案され話し合っても聞き流しではどうしようもあり

遠足は今でも四、六年生は秋だけで(旅行日程と調整の為)春は低学年と高学年は別行動です。私は学校行事は全校で行なう事が良いと思っていますので、別行動化がこれ以上進まないか心配です。

保護者が土曜日家庭に居ない子供を受け皿的な施設等は出来るのか、今のままでは困る家庭の調査確認も必要であると思えます。

又休みに集団で非行に走る事のない様注意する必要もあります。今後これが一番大事な事だと思っ

て居ります。成人式の報道を見ても、親・地域・学校が今後の教育を考え直さなければならぬ時期で有る事は充分理解出来ます。特に娘という教育を学校を頼り、押し付けていた事も感じられ、親として反省しなければならぬと思えます。

週五日制実施を機会に良い教育改革が出来る様願っております。緑ヶ丘中学校生徒指導主事

赤羽 孝之

もう十年近く前になるでしょうか、週五日制における生活実態を知る目的で西欧へ研修に行く機会がありました。

「休日の家の手伝いはどうさせていますか？」との私たちの問いに、げんそうな顔でしばらく考え「子どもの自由にしていきます」と回答がありました。なぜそんな顔をしたのか「子どもが家の手伝いをするのはあたり前のこと」少年健全育成。と言われました。長谷川先生は、見て見ぬふりをしている人は「よそ者」最近はこの「地域の子どもは地域が育てる」という人が多くなった。悪い事を悪いと言え隣のおじさん・おばさんになってほしい。ここからが青

二十一世紀は

「あいさつ」でスタート!!

まず、あいさつを大人から

「おはようございます。」

「行ってらっしゃい。」

「こんにちは。」

「お帰りなさい。」

「さようなら。」

あいさつは、家庭から! 地域から!

地域の子どもは、地域の大切な財産です。「地域の子どもは地域で育てる」。その第一歩として、あいさつ運動を進めます。

あいさつは、子どもたちと心を通わせる優しい心の小道です。大人同士、大人と子どもがあいさつを交わす中で、互いを思いやれる心を育てて行きたいと考えます。

この度、松尾地区に「松尾地区青少年健全育成連絡協議会」が発足致しました。この会は、松尾地区内の青少年健全育成に関係する全ての団体・諸機関が参加し、地区全域における青少年健全育成活動を推進するため、団体の枠を越えて連絡を取り合い、また協力し合うことを目的としています。

